

1 単元名 命についての生き方のカギを見付け、自分のマインドセットを更にアップデートさせよう。

## 2 単元の目標

- 語句と語句との関係、語感や言葉使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。  
知(1)オ 【知識・技能】
- 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。  
思 C(1)カ 【思考・判断・表現】
- 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。  
思 C(1)エ 【思考・判断・表現】
- 命についての生き方のカギを見付けるために、意欲的に本を読んだり、自分の考えを積極的に伝え合ったりしようとしている。  
【学びに向かう力・人間性等】

## 3 単元について

### (1) 教材観

「海の命」は、主人公・太一が自然や人との関わりを通して成長していく物語である。太一の父は村一番のもぐり漁師であったが、一匹の大きなクエを捕ろうとして命を落してしまう。太一は、父や与吉じいさの「生きていく上で必要な分だけ魚を捕る」という教えを守りながら立派な漁師へと成長していくが、心の中では父の命を奪ったクエを討ちたいという思いを抱き続けている。このような「教え」と「人の欲」の対比を通して、児童は自然との共存や生と死、自分がどう生きるべきかという葛藤について深く考えることができる。

また、物語では太一の成長が登場人物との関わりの中で描かれている点も大きな特徴である。父や母、師匠の与吉じいさなど、太一に影響を与える人物の存在が丁寧に描かれることで、児童は自己を重ね合わせながら多面的に考えることができる。特に「瀬の主(クエ)」は、太一が追い求めた魚であると同時に「海の命」を象徴する存在として描かれており、自然に対する畏敬や人間と自然の関係を理解する手がかりとなる。

さらに、この物語は卒業期の児童にとって特に価値が高い。大切な人の死や葛藤を乗り越え、自分の生き方を確立していく太一の姿や、父や師匠の言葉を通して示される自然との共生の考え方は、児童が自らの家族や大切な人物との関係、自分の生き方を見つめ直す契機となる。自然との関わりや命の尊さ、伝統や価値観の継承といった普遍的なテーマを含んでいるため、児童が人間の内面や価値観の変化を丁寧に読み取る力を育てるのにも適している。

### (2) 児童観

本学級の児童は、本校の「未来につなぐれ 笑顔いっぱい 夢いっぱい 平和で明るい金子の町～生き方のカギを見つけよう～」というESDテーマの下、様々な教科で自分の生き方の参考になることを見付けている。国語科においても、物語教材である『帰り道』では、「友達関係のカギを

見付けるために、律と周也の心情を読み取り、自分の考えを表現しよう！」を、『やまなし』では、「VUCA の時代でも大切な生き方のカギを宮沢賢治作品から受け取ろう！」という単元目標で「生き方のカギ」を見付けてきた。これまで、学んできたことを通して、本教材においても『海の命』から命に対する「生き方のカギ」を見付けることが期待できる。物やサービスが溢れてかえっている現代だからこそ「豊かさ」について、考えることが必要である。本学級の児童も、当たり前のように文房具を使い切らなかったり、落とし物があっても自分のものと気付かずそのまま放置して、最終的に捨てたり、給食も苦手だから食べずにほとんど減らしていたりする姿が見られる。『海の命』を通して、「豊かさ」「命」とは何なのかを対話を通して、共に学んでいきたい。

### (3) 指導観

現在、戦争や災害、溢れているサービス、急激に変わっていく社会など、VUCA の時代だからこそ命とは何なのか、豊かに生きていくとは、幸せに生きる価値観とは何なのかが問われていると考える。単元前後での自分の考えを対比させながら、成果物を通して、子どもたちの生き方のカギが一つでも増えて欲しいと考えている。

第一次では、学校司書と一緒にブックトークを行い、立松和平作品を読む意欲を高めていく。そして、担任が読んだ本の中からのイチオシの生き方のカギを「読書ボード」で紹介し、言語活動のモデルを示すとともに学習の見通しを持たせる。また、「自分のイチオシの生き方のカギ」を伝えるために、どんな項目（あらすじ、受け取ったメッセージ、心に響いた文など）が必要か考える。そして、イチオシの生き方のカギを一人で見付けられるようにするために、全員で『海の命』を読むという必然性を持たせたい。

第二次では、『海の命』から、命や豊かさについての生き方のカギを受け取るために児童から出た学習課題を基に学習計画を考えていく。そして生き方のカギを受け取るために、思考ツールを使って考えを整理し、グループ交流や自由交流などの学習形態で意見を深めたり、全体で深める場を設定したりするなどして、対話の場を工夫したい。最終的には、「瀬の主でなくても全ての命が海の命である、全ての命がつながっていて、自分たちは自然に生かされていると気付いた。」「豊かさとは、ものではなく、心が満たされている状態だと考える。それぞれ（全ての生命）の命の尊厳を尊重し、食物連鎖のような生命の循環がされていることだと思う。」「命を尊ぶ心の豊かさ、人とのつながりがもたらす豊かさ、葛藤を乗り越えて生き方を見つける豊かさなど、目には見えない思いや考えが大切にされ、伝わっていくことが豊かさなのだと思う。」などの生き方のカギを見付けてほしいと考えている。そして、自分のイチオシの生き方のカギを成果物にまとめるために、キャッチコピーとしてまとめたい。また、教材以外にも、生産者の視点から実際に働いている漁師からの言葉を聞き、命について、違った視点を持てるようにする。

第三次では、自分の考えるイチオシの生き方のカギについて成果物にまとめる。自分で選んだ生き方のカギに対して、自信を持って「これだ！」と言えるようにするために相談会をする。そして相談会では、イチオシの生き方のカギ、心に響いた文、あらすじなどを基に話し、聞く人は、受け取ったメッセージに対する自分の考えを伝えるようにする。そして、成果物を完成させた後、展覧会を行い、お互いの生き方のカギを見て、様々な考えに触れさせたい。家の人にも読んで話し合ってもらうことで、考えを聞く機会も増え、更に、自分の生き方について考えを深める場としたい。

#### (4) ESD との関連

##### ・本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

多様性…一人一人、作品から受け取るメッセージは違う。対話を通して、それぞれの考え方を取り入れることができる。

有限性…太一の人生を通して、私たち人間は、海のめぐみなど、自然に生かされていることを感じ、大量生産・大量消費が当たり前の中になってはいけないことに気付くことができる。

公平性…今だけではなく、未来のことも考えて、行動していく考えを読み取ることができる。

##### ・本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

###### 多面的・総合的に考える力 (システムズ・シンキング)

立松和の作品を読むことを通して、メッセージを受け取ったり、友達の考えと比べたりして、今までの考えを問い質し、自分の生き方のカギを見付けることができる。

###### つながりを尊重する態度

私たちと自然が密接につながっていることに気付き、自然の中の一部として、周りのものを大切にしようとする。

##### ・本学習で変容を促す ESD の価値観

###### 世代間の公正

自分さえよければいいという考えではなく、これまで、つないできた命を未来にまで命をつないでいく考え方は重要である。

###### 自然環境、生態系の保全を重視する

「千びきいるうち一びきをつれば、ずっとこの海で生きていけるよ。」などの言葉から自然の一部であることに気付くことが自然と調和した暮らしにつながっていく。

##### ・達成が期待される SDGs

1 2 つくる責任 つかう責任

1 4 海の豊かさを守ろう

#### 4 単元の評価規準

(ア)知識・技能	(イ)思考・判断・表現	(ウ)主体的に学習に取り組む態度
① 語句と語句との関係、語感や言葉使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。	① 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。 ② 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。	① 命についての生き方のカギを見付けるために、意欲的に本を読んだり、自分の考えを積極的に伝え合ったりしようとしている

## 5 単元の指導計画（全 16 時間）

学習活動	○学習への支援	○評価・備考
<p>1 担任や学校司書のブックトークを聞き、学習課題を持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考える命とは何だろう？</li> <li>・どうして瀬の主を殺さなかったのだろうか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 読む必然性を高めるために、学校司書と連携し、ブックトークを行う。</li> <li>○ 並行読書のマトリックス表を作成することで、誰がどんな本を読んでいるか視覚的に分かるようにし、対話できる選択肢を作る。</li> </ul>	<p>イ① ウ①</p>
<p>2 海の命から生き方のカギを見付けるために、物語の全体を捉える。</p> <p>3 個人で考えたい問いを考える。</p> <p>例) 村一番と本当の一人前の漁師の違いは何だろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人前の漁師というのは瀬の主のような大物を討つことができる漁師だと思います。</li> <li>・村一番は、その村だけだが、一人前はどこに行っても通用するイメージです。</li> <li>・この「海の命」というお話の中では村一番は、海の命の大切さを本当の意味で理解できているイメージで、一人前は技能的なイメージを感じます。</li> </ul> <p>4 どうして瀬の主をうたなかつたのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海の命だと思えたと書いてあるから、瀬の主を討つことで生態系が崩れるのではないかと思いました。瀬の主を討たないことがたくさんの命を討たなかつたことにつながると感じました。</li> <li>・最初の考えではただ単に瀬の主のことを「おとう」だと思っていたから討たなかつたと考えていたけど、太一が瀬の主を討たなかつたのは、自分の欲だけで、本当の意味で命を頂くということになっていないと気付いたからだと思います。</li> </ul> <p>5 海の命から受け取った生き方のカギを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これから生きていく上で、大切にしていきたいのは、できる限り自然と共存をしていくこと、そして自然を大切にすることです。「海の命」を読んで、とても偉大な自然の命をもらいながら今生きているから、その自然はとても大切にしないといけないと思ったからです。</li> <li>・豊かさとは、ものではなく、心が満たされている状態だと考えました。それぞれ（全ての生命）の命の尊厳を尊重し、食物連鎖のような生命の循環がされていることだと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「物語を読むための 10 の武器」を使いながら、思考ツールにまとめさせるようにする。</li> <li>○ 個人の問いとクラスで考える重要課題を分けることで、全体で深める場を作るようにする。</li> <li>○ 学習形態を工夫することで、たくさんの方の対話を行い、考えを深められるようにする。</li> <li>○ 考えを深めるために、思考を促すような問いを考えておいたり、状況に応じて教師も話し合いに参加したりする。</li> <li>○ 実際に漁師の人にインタビューしたことを最後に伝えることで、新たな視点が見つかるようにする。</li> </ul>	<p>ア① イ② ウ①</p> <p>ウ①</p> <p>イ①</p>

<p>6 自分が選んだ本で成果物に書く内容を考える。(下書き段階)</p> <p>7 相談会を行い、悩んでいることや相手に聞きたいことを話し合う。</p> <p>8 自分が選んだ本で成果物を作る。</p> <p>9 命の生き方のカギ展覧会を行い、成果物を交流する。</p>	<p>○ 成果物を制作する段階で、一度相談会を行うことで、自信を持って取り組めるようにする。</p> <p>○ 並行読書の本を教師が全て把握することで、問い掛けを行い、共に考えられるようにする。</p> <p>○ 展覧会で、友達にコメントをもらうだけでなく、お家の人や教師のコメントをもらうことで、更に考えを深められるようにする。</p>	<p>ア① イ① ウ①</p>
--	---	-------------------------